

無垢フローリングの特徴

無垢フローリングは、
天然の木材を素材のまま板状に加工して、
床材として利用します。

ウレタンとか、オイルで仕上げた製品もありますが、
自然の木材そのまま
でも利用可能で、自然のまま使えば、
人工的な有害物質を含まないので
人に優しい素材となりますし、
オイルなど自然素材の製品を使えば、エコロジーにもつながります。

無垢フローリングは
素材の特徴が、そのまま床の特徴となります。

杉や桧の針葉樹は歩いた感触が柔らかくなり、
チークなどの紅葉樹は強く固いので傷に強くなるなど、
木材本来の特徴を生かし、選択をすることができるのです。

床の表面が剥がれたりする
ことがないので、
合板のフローリングより長持ちし、
傷などは付きやすい（合板のように表面処理をしていない）傾向がありますが、
長く使えるのです。

また、表面が多少磨り減っても、
材料に厚みがあるためにさほど気になりません。

自然なバラツキがあるところも、
好みによっては長所となり、
自然素材特有のバラツキがあるので、
まったく同じものがない、
飽きの来ないデザインとなるのです。

無垢フローリングは、
表面の仕上がりによっても、
好みの性能や感触に仕上げる事が出来ます。
傷を減らしたい場合は耐久性のある塗装、
感触を楽しみたいならオイル仕上など、
同じ素材をバリエーションで楽しむ事が出来るのです。

柔らかめの木を選べば、
上を歩いた感触も柔らかく、
足の負担を軽減でき、
同時に温かみも感じるので、
床の冷たさも緩和してくれるのです。

無垢フローリングは、
変形が生じやすいところが最大の弱点で、
温度や湿度によって変形しやすいので、
床鳴りや段差や隙間が生じることがあります。
特に床暖房などを行うと変形が目立つので、材料を選ぶ際には細心の注意が必要となるのです。

無垢材フローリングは「暖かい」。

合板フローリングと比較しても

暖かいと思います。

暖かさは表現しづらいと思いますが、

基材の空気量（基材の比重）と比例いたします。

すぎ 0.38 チーク 0.60 ナラ 0.68 クルミ 0.53

コンクリート 2.3 アルミニウム 2.7 ガラス 2.5

これが、無垢フローリングの

暖かさを証明出来るでしょうか？

暖かさより、

「心地よさ」

っていう表現方法がピッタリかもしれません。

無垢フローリングは、

比重が低い分、基材に空気層があり、空気を含んでいるので、

断熱性、

保温性が高く適度に

柔らかく、木材の臭いが、

その

「心地よさ」

で人をリラックスさせてくれるのです。